

弘前大学大学院医学研究科（消化器外科学講座）教員公募要項

1. 募集職種・人員 **教授 1名**
2. 任 期 10年
※ 弘前大学は教員の任期制を導入しており、大学院医学研究科の教授の任期は10年（再任可）となります。
3. 所 属 大学院医学研究科 消化器外科学講座
4. 専 門 分 野 消化器外科学
5. 担 当 科 目 医学部医学科 : 外科学概論、特別教育科目(研究室研修)、PBL、総合教育演習Ⅱ、臨床実習Ⅰ・Ⅱ
大学院医学研究科 : 消化器外科学講義、乳腺・甲状腺外科学講義、消化器移植再建医学講義、消化器移植再建医学実験実習
教養教育 : 専門領域に関わる科目等
6. 採用予定時期 令和 8年 4月 1日 以降
7. 待 遇 (1) 給与については、国立大学法人弘前大学職員給与規程が適用になります。
(2) 労働条件については、弘前大学の定める規程等によります。
8. 応 募 資 格 次の要件すべてを満たす者
(1) 医師で、消化器外科学を中心に、乳腺外科、甲状腺外科、移植外科、内視鏡外科などの医療分野に関する教育、研究及び診療に熱意を有し、かつ、当該分野において先進的医療を実践できる者。
(2) 博士の学位を有し、大学院医学研究科（博士課程）において主指導教員として教育研究指導ができる者。
(3) 国際交流を推進できる者。
(4) 一般社団法人日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価が教員に求める能力を有する者。
9. 応 募 書 類 次に挙げるすべての書類
(1) 履歴書 【様式1】
写真(カラー、4cm×4cm、3ヶ月以内に撮影したもの)を貼付してください。
(2) 研究実績目録 【様式2の1の1～2の7】
以下の区分・順序により記載してください。なお、研究業績目録のうち学位論文には◎印を、主要業績(別冊提出論文)には○印を、応募者氏名にはアンダーラインを付してください。また、欧文原著、欧文症例報告、欧文総説については、掲載年にかかわらず、クラリベイト・アナリティクス社「Journal Citation Reports」による直近のインパクトファクター(IF)値を記入してください。
①原 著
②症例報告
③総 説
④その他
⑤著 書
⑥学会発表(特別講演、宿題報告、シンポジウム、パネルディスカッションなど
主要なもの、及び国際学会)
(3) 研究教育等実績一覧 【様式3の1～3の5】

- ①教育実績
- ②社会及び学会における活動実績
- ③研究補助金等の実績
- ④診療経歴
- ⑤最近3年間に術者(治療手技者)及び指導助手として関与した手術症例
- (4) 応募者周辺の方へのアンケート調査に係る同意書 【様式4】
- (5) 教育、研究、診療等に対する抱負 【様式5の1～5の4】
 - ①教育に対する抱負
 - ②研究に対する抱負
 - ③診療に対する抱負
 - ④講座運営・地域医療に対する抱負
- (6) 主要業績の別刷(10編以内) 各2部
別刷は、事後に返却いたします。
- (7) 関係者の推薦書 【任意様式】
厳封の上、別便で推薦者から「12. 書類提出先」まで直接送付してください。
- ※ 応募書類(様式等)については、大学院医学研究科ホームページ「教員公募情報」(<http://www.med.hirosaki-u.ac.jp/web/teacher.html>)からダウンロードできます。

10. 応募期限 令和 7年11月 5日(水) 17時【日本標準時】

11. 選考方法 (1) 書類審査
(2) 選考の過程において、応募者周辺の方に対して、応募者の教育、研究、診療、管理運営の参加の状況等についてのアンケート調査を実施します。また、選考委員との面接、模擬講義、教育・研究に関する抱負等の発表のため弘前大学にお越しいただく場合があります。

12. 書類提出先 〒036-8562 青森県弘前市在府町5
弘前大学大学院医学研究科内教授候補者選考委員会 宛
※封筒に「教員応募書類(消化器外科学講座) 在中」と朱書きし、簡易書留、レターパック、EMS、その他法令で認められる送付方法により、送付記録の残る方法で送付してください。

13. 問い合わせ先 〒036-8562 青森県弘前市在府町5
弘前大学医学研究科総務グループ(総務担当) 齋藤
TEL: 0172-39-5539 E-mail: jm5194@hirosaki-u.ac.jp

14. その他 (1) 弘前大学は男女共同参画を推進しています。業績及び資格等に関わる評価が同等と認められる場合には女性を優先的に採用します。面接時の交通費支援を含む支援策については、男女共同参画推進室ホームページをご覧ください。
(ホームページのURL <https://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/>)
(2) 弘前大学では、女性の方、外国人の方の積極的な応募を歓迎いたします。
(3) 必要に応じて他の学部・研究科等の教育や業務、あるいは教養教育等を担当していただく場合があります。
(4) 応募書類により取得する個人情報、本公募による教授候補者の選考及び採用時の人事、給与、福祉関係等必要な手続きにのみ利用するものであり、この目的以外で利用又は提供することはありません。
(5) 手術見学を依頼することがあります。

令和 7年 6月16日

消化器外科学講座教育・研究組織に関する提言

1. 講座のあり方と方向性

消化器外科学講座は、消化器外科を中心とした外科学全般の卒前・卒後教育を担当し、診療・教育・研究を通じて我が国をリードする外科医を育成することを目的とする。そのためには、先端的かつ国際的な研究を推進することが求められ、特に人材の確保に努める必要がある。

2. 診療

消化器外科のみならず乳腺外科、甲状腺外科、移植外科、内視鏡外科などの最先端の医療を、メディカルスタッフおよび他の診療科と協力しながら提供する。外科治療では、医療安全と医療経済に留意するとともに、地域の外科医療施設と連携して、高度で効率的な外科医療を提供する。

3. 教育

卒前教育においては、外科学の体験を通して学生に医学の魅力を伝えることを目標とする。卒後教育においては、最先端の外科医療と研究を通して、我が国をリードし、国際的に活躍できる外科医を養成する。

4. 研究

他の診療・研究部門と協力して、臨床的・基礎的研究を行い、視野の広い外科医を育成する。

5. 社会活動

地域医療に対して積極的に貢献することが求められる。特に、地域の中核病院との人材交流、遠隔医療・教育システムの活用、医療過疎地域における診療支援の実施などを通じて、地域医療の質と持続可能性を高める責務を担う。

6. その他

外科医として第一に求められるものは、疾病に苦しむ者に対する深い思いやりと周術期治療を支える高い臨床能力である。患者中心の良質な外科治療を提供するためには、医療チームの一員としてメディカルスタッフと良好な関係を維持していく能力も重要である。特に、教授には、多くの外科スタッフを指導していくリーダーシップとチームをまとめる人間性が必要である。

消化器外科学講座教育・研究組織提言委員会

石橋恭之（委員長）、横山良仁（副委員長）、水上浩哉、
三上達也、櫻庭裕丈、皆川正仁、畠山真吾、漆館聡志